

## はじめに

### 1. たばこ耕作資材試験（新器材試験）の目的

葉たばこ生産における新規資器材の効果、性能、葉たばこに対する安全性を公正・中立な立場で調査し、J Tおよび葉たばこ生産農家が新技術・新資器材を導入する際の基本情報を提供する。

### 2. たばこ耕作資材試験の流れ

- ①試験の申し込み（前年9～10月）
- ②ヒアリング（前年11月，試験依頼者による資材の説明）
- ③試験の受託および通知（前年12月，試験計画を作成し，試験実施機関に通知）
- ④試験実施（～12月）
- ⑤中間報告のための調整（8月，各専門委員と報告書内容の調整）
- ⑥中間報告（9月上旬）
- ⑦試験成績検討会（中間）（10月，8月までに得られた試験成績の公開）
- ⑧総括コメント（中間）（10月，上記で得られた成績の評価結果公表）
- ⑨最終報告のための調整（翌年1月，各専門委員と報告書内容の調整）
- ⑩最終報告（翌年1月中旬）
- ⑪試験成績検討会（最終）（翌年2月，9月以降に得られた試験成績の公開）
- ⑫総括コメント（最終）（翌年2月，上記で得られた成績の評価結果公表）
- ⑬「たばこ耕作資材委託試験公開公報」発刊（翌年4月）

※⑤，⑨の専門委員との調整は時期を失しないよう行うこと。

### 3. 試験結果報告時期と報告先

#### 1) 中間報告

- (1) 試験研究機関（J T以外）：毎年葉たばこ財団より通知
- (2) J T各機関：毎年試験実施通知で指定

#### 2) 最終報告

- (1) 試験研究機関（J T以外）：毎年葉たばこ財団より通知
- (2) J T各機関：毎年試験実施通知で指定

#### 3) 報告先

- (1) 試験研究機関（J T以外）：一般財団法人 葉たばこ財団
- (2) J T各機関：J T西日本原料本部を経由して上記へ報告

#### 4. 供試資器材の種類

原則として、商材として完成し、販売可能な資器材についてのみ試験を実施し、試験対象名は以下の表により指定・通知する

分野	資器材分類	目的	試験対象名	
			形式	例示
農 薬	殺菌剤、殺虫剤	薬剤の効果の検定	「対象病害虫名(薬効・薬害)」	うどんこ病(薬効・薬害) アブラムシ(薬効・薬害)
		薬害の有無の調査	「薬害」	
	植物生長調節剤	薬剤の効果の検定	「除草(薬効・薬害)」、「わき芽抑制(薬効・薬害)」等	
		薬害の有無の調査	「除草(薬害)」、「わき芽抑制(薬害)」等	
	官能検査	薬剤処理の喫味等への影響調査	「官能検査」	
肥料・土壌改良剤	苗床用肥料・土壌改良剤	資材の代替効果検定	「肥効(苗床)」	
	本畑用肥料	資材の代替効果検定	「肥効(本畑)」	
	土壌改良剤	資材の代替効果検定	「土壌改良」	
	堆肥	資材の代替効果検定	「堆肥」	
	追加施用肥料	追加施用の効果検定	「施用効果」、「散布効果」、「処理効果」の中から適切なもの	
苗床・本畑資材	苗床用資器材	資材の代替効果検定(育苗用土)	「育苗用土(親床)」、「育苗用土(子床)」	
		資材の代替効果検定(ポット、他資材)	「育苗資材」	
		苗の生育促進効果等の調査	「健苗育成」	
	本畑用資器材	収量・品質への効果の調査	「施用効果」、「散布効果」、「処理効果」の中から適切なもの	
		マルチフィルム等の代替の調査	「本畑生育」	
機 械	機械	機械の性能確認	「機械が行う作業名 作業性」	移植作業性、収穫作業性、接触型わき芽抑制散布作業性
	乾燥用器材	器材の作業性確認	「葉編み・吊り込み作業性」	
乾 燥	乾燥機	乾燥機の性能確認	「乾燥」	
		乾葉の調湿性能の確認	「調湿」	
	乾燥用資材	乾燥中の処理効果の調査	「処理効果(効果の対象)」	処理効果(発かび防止)

注) 斜体は対象名。